



## 設立15周年「恍惚の人」

理事長 柿澤善樹

世界中でコロナ禍が続いています。往還では、住んでいる利用しているご高齢者、職員が2回目のワクチン接種を終えています。残念ながら変異株により感染拡大は今まで以上となっており、感染予防の対策はワクチン接種後も全く変わりません。面会等も今までと同様です。オリンピックが色々あろうとも無事終わってほしいものです。

さて、往還が設立され15年が経ちました。介護保険制度が始まってから20年です。老人介護を取り上げた有吉佐和子の小説「恍惚の人」は発刊されて約50年経ちます。かつては、「家族に介護老人を抱えたら誰かが犠牲になることはどうも仕方がないですね」と考えられてきました。誰かとは主に家庭の嫁でした。介護保険制度ができる時、「子が親を見る美風を壊す」と制度に反対する意見も出ました。「寝たきりや認知症の老人を世間の目から隠すこと、年寄りの世話は家族でやるべきだ」とする「家族介護」の通念は当時極めて強く、現在でも残っています。「社会的入院」にて圧迫される医療保険財政をコストの安い介護に乗り換えさせることもこの制度の狙いでした。当時は高齢化社会で介護職が重要になり花形職業の様に言われ、高校には介護コース、また介護専門学校が多く設立されました。しかし、制度が運営されると、介護保険料を払っているという権利意識、家族の負担軽減が認識され利用が進む一方、介護職員の過重な仕事がアップされました。当初から、介護職員数が大量になる予測から、政策として給与を低く設定したと感じます。高校でも専門学校でも介護を専攻する学生は極端に減少しました。団塊世代最後が75歳以上となる2035年には30万人以上の介護職員が不足するといわれています。現在介護職を担っている方々は「介護が楽しい」という方が多いです。御高齢者の笑顔を見ると嬉しくなるのです。病院で管に繋がれるのではなく、人間として自然に老いを全うする住処を担うという誇り、社会に役に立つ自負心を持っています。コンピューター社会になり、現在社会評価が高いものも含め少なくない仕事はAI（人工知能）にとって代わられると謂われています。介護はどうでしょうか？AIを活用することはあってもとって代わられることはありません。AI社会が進むほどに介護職の重要性が高まります。設立15周年を迎え、介護は職員と利用者およびご家族の相互信頼を大切にすることを再確認します。



# 七夕レクリエーション

レクリエーション係

小船 純子



今年も七夕の季節がやってきました。往還では、各ユニット内で入所者様に短冊を書いてもらったり、職員と一緒に笹に飾りつけをしたものを往還ホールに集めて、皆さんに見て頂いています。

各ユニットの工夫を凝らした笹飾りと天井の天の川やホール全体の吹き流しで華やかな七夕まつりの雰囲気少しでも味わっていただけたらと思えました。利用者様の喜んで頂けた声を聴き、レク係一同来年への励みへとなっています。

去年に続き今年もコロナ感染対策の為、入居者様と家族様が織姫と彦星の様になってしまっている状況ですが、去年と比べワクチン接種が始まるなど少し希望もみえてきました。早く感染者が収束し以前のような面会が出来るような日が来ることを願っています。



## お知らせ

### ご家族様による持ち込み差し入れについて

通常的面会が難しいため、食べ物の差し入れをご持参して頂く機会があると思います。本人様も喜んで頂けており、職員としても嬉しく感じています。一方で夏場であるため、衛生面からこの場を借りて以下の点をお願いさせていただきます。ご理解ご協力をお願いします。

- ・生物類は衛生的な問題からご自宅で包丁にて切って頂くことはできるだけ避けて頂き、スーパーで売られているカットフルーツをご持参ください。
- ・小分け包装されているもの、食べきりサイズの量をご持参ください。
- ・本人様のお体の状態、疾患、飲み込み能力等によってはお持ち込み内容を調整したり、お断りさせて頂くことがあります。
- ・食中毒の観点から、食べ残ったものについてはこちらで処分させていただきます。

## コロナワクチン接種



当施設の入居者及び職員のコロナワクチン接種が6月2日～始まり、7月7日無事に完了しました。この期間で接種できなかった方に関しては、外部で接種していただくようお声掛けさせて頂いております。

面会やボランティアなどの当施設の対応については、世の中の状況や行政の動き等をもとに現在検討中です。皆様にはご心配・ご迷惑をお掛けしております。対応が決まり次第、発信させて頂きますので引き続きご理解ご協力をお願いします。

一日も早く安心できる平穏な生活になることを願っています。



管理栄養士  
みどり通信

祝 往還開所15周年記念ご膳を  
食べていただきました ♪

令和3年6月16日往還は開所15周年を迎えました。ご利用者様にもお祝いを兼ねて赤飯中心のご膳を提供させていただきました。まずは15年間大きなトラブルもなく日々安全にお食事を提供していただいた給食委託会社魚国様に感謝したいと思います。



さて、6月16日の誕生花を調べてみました。いくつかあるようですがその中から「ベロニカ」というお花を紹介したいと思います。花言葉は「忠実」と「名誉」。聖女ベロニカと名前の綴りが同じことからこの花言葉が付けられとそうです。ベロニカは新約聖書に登場しているキリストの汗を拭いた女性だそうです。花言葉の「忠実」は真心を持ち奉仕すること務める事の意味でまさにこの15年間の往還の歴史を物語っているようです。

## 永年勤続表彰を受けて

クラブ・レク担当 伊藤美子



往還15周年おめでとうございます。表彰を受けた日は緊張して感無量でした。続けて立派な記念品の数々、有難うございました。そして歓喜、責任、加齢が頭の中を去来していました。思えば、最初のレクの日。どうしたら利用者様によろこばれるか考えの末、ひらめいたのが足のアキレス腱の歌による短い揉みほぐしでした。以来今も続けています。

次に習字クラブ（18名）もいくつか変遷してきました。今は自分の書きたいお言葉に挑戦されています。先日S様は『元気で長生きする』と書かれ、大変よろこばれ、「有難うございました」とお礼を申され、私もうれしくなり、「ありがとうございました。」と心からお礼をいいました。

お花クラブ（15名）も今は様変わりしました。ご自由に生けられる方が多くなり、今風の自由花とよろこんでいます。

いくつかの変遷を通して“継続は力なり”と思います。オリンピックが開催され、尚も続くコロナ禍での生活の中に少しでも刺激を感じ生きる力になって頂く事を願って、自らを高めつつ、これからも頑張りたいと思いますので、よろしく願い申し上げます。



# 職員研修



コロナ感染対策の点から、ネット研修を活用した形で知識や技術の向上を図っています。

## ● 4月『社会人としての接遇マナー』

### 『チームで取り組むということの意味』

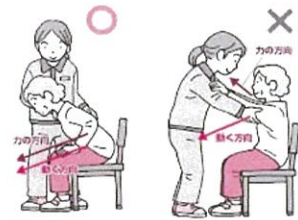


ご利用者と向き合っていて関わらなかで、関係が築けてくると振る舞いが雑になってしまいがちです。今回の研修では「挨拶」・「言葉遣い」・「身なり」・「表情・態度」を振り返る良い機会となりました。また、チームでの取り組み方について学び、往還職員がチームとして取り組んでいくために、「人の話を聴くときの順序」「物事の捉え方（気持ちのあり方）」「振る舞い方」を見直す良い機会となりました。

## ● 5月『介助の基本』

### 『腰痛予防対策と腰を痛めない介助法』

### 『立ち上がりを理解する』



介助の原則 ①生理学に基づいた介助法、②力の質（方向・バランス・タイミング）、③残存機能を引き出して生かす ことを動作を確認しながら学びました。腰痛の発生原因（人力による人の抱え上げ・不自然な姿勢）を知り、脚・膝の力を活用することで腰を守る介助のしかたを学びました。立ち上がりの5つの条件 ①きちんと座る、②足が床につく、③足の幅、④足を引く、⑤前にかがむ を押さえて、良い動作を誘導できるように関わっていきたいと思います。

## ● 6月『介護現場の衛生管理』

「清潔・不潔のゾーニング」、「食事や排せつ、調理、入浴にかかわる衛生管理」を再確認しました。



## ● 7月『ヒヤリハットの目的と意義』

### 『高齢者の転倒予防』

### 『ことばの影響』



ヒヤリとしたり、ハッとした出来事を、体験した本人から聴くことによって、リスク感性（注意力）が増し、安全対策を実施しておくことに繋がります。転倒については体の反応機能や疾患による特徴、環境整備などを確認しました。言葉には言霊があります。言葉の影響力を知り、日頃から心掛けるポイントを再確認しました。